

ベンチャービジネス・レビュー第17号刊行に当り

ベンチャービジネス研究所所長
経営学部 教授 村上 喜郁

このたびベンチャービジネス・レビュー第17号が刊行される運びとなりました。

本年度も、追手門学院大学ベンチャービジネス研究所の紀要を発行することが出来ました。本号で、『ベンチャービジネス・レビュー』も第17号となります。また、近年は、特別号と合わせ、多数の研究成果を発表出来ております。改めまして、所員、研究員の先生方、また、産学官連携オフィスのスタッフの皆様、外部から研究にご協力いただいた方々に、お礼申し上げたいと思います。

さて、2024年は、年初から大きな地震や政権が安定しないなどの暗い話題もありました。他方で、日経平均株価の史上初めて40,000円越えや、米アカデミー賞での『ゴジラ-1.0』の視覚効果賞受賞、宮崎駿監督の『君たちはどう生きるか』の長編アニメーション賞受賞、また、『SHOGUN 将軍』がエミー賞史上最多の18部門受賞、パリ五輪では海外開催大会でのメダル獲得数最多を更新するなど、明るい話題もたくさんございました。

当研究所の活動におきましても、新たな受託研究「中核職員を対象とした研修プログラムの開発」とその成果として「令和の地域金融機関管理職に求められるスキル向上プログラム」を実施することが出来ました。加えて、社会人向け講演としましては、当研究所の元所長であられる小西一彦先生が主催の「北摂ベンチャー研究会」に協力し、5回の連続公演を開催しております。さらに、共同研究「北大阪の元気な中

小・中堅企業プロジェクト」の集大成として、『With/Afterコロナ 大阪の元気な中堅・中小企業』が追手門学院大学出版会より刊行しております。例年同様、茨木フェスティバルにおける大規模アンケートとその分析は、『ベンチャービジネス・レビュー 特別号』にて発信いたしました。本研究所の規模から考えれば、これらは大きな成果であると自負しております。

所員の先生方の学生に研究活動以外でも、複数の喜ばしい結果が出ております。福嶋伸之先生をお招きした「ビジネスプランコンテスト対策セミナー」では、学内コンテストで結果を出すだけでなく、(一財)学生サポートセンター主催「第22回 学生ビジネスプランコンテスト」での受賞者を輩出いたしました。また、学生研究会が中心となった商店街活性化の「あくたがわんプロジェクト」は、「OIDAI WIL AWARDS 2024」校友会会長賞を受賞しております。着々と学生たちも成長していることは、嬉しい限りです。これらを含む本研究所の2024年度における活動は、本誌巻末に掲載しておりますので、あわせてご覧いただければありがたいと存じます。

最後となりますが、追手門学院大学ベンチャービジネス研究所の活動にご協力いただきました、茨木商工会議所、茨木市、大阪市、北おおさか信用金庫、株式会社サイネックス、一般財団法人教育振興財団、フジテック株式会社、アプリル株式会社、芥川商店街ほか、すべての関係者の皆様に、この場をお借りして心からお礼申し上げます。